

四つ葉のクローバー

保田 健太 神奈川県相模原市 二十三歳

これは僕が小二の頃、生まれて初めて自分の力で作ったプレゼントの話だ。僕は障害を抱えて生まれ、車椅子生活だ。そんな僕に、何の偏見もなく接してくれる夫婦がいた。

ある時「緑を見ると、心が落ち着いて優しい気持ちになるよ。」という祖母の言葉を思い出し、四つ葉のクローバーを必死で探した。そして、五日目にやっと見つけた。しかも四枚！僕は宝物を一人じめにした気分だった。空色の画用紙に付けて、透明な幅広テープで仕上げた。左手しか使えない僕が作ったお守りは、少し不格好だったが、何とか三枚仕上げ満足だった。すぐに手紙を書き同封した。でも、障害のある僕が作ったお守りを、本当に喜んでくれるのか少し心配だった。

一年半後、手紙が届いた。「引越しをしたり、色々あったので返事が遅くなってごめんなさい。健ちゃんのお守りのおかげか、家族が増えました。今も大切にしています。」そして、赤ちゃんの写真が同封されていた。やった！僕は嬉しくて涙が止まらなかった。

僕が贈った四つ葉のクローバーが、ブーメランのように幸せを運んでくれた。そして、繋がれた心が生きる力になり僕は頑張れた。現在、二十三歳になった僕は、共生社会に向け地域でボランティア活動をしている。辛いことや悲しいことがあった時は、緑を見て心を温め「きつと上手くいく。きつと伝わる。」と心で呟く。そうすると力が湧いてくる。だから僕にとって緑は、幸運を呼ぶ女神なのだ。